

## 普代中3年の榎屋晶子さん

### 税の作文 コンクール 大蔵財務協会理事長賞

普代中三年の榎屋晶子さん  
写真が、全国納税貯蓄組合連  
合会の中学生を対象とした「税

についての作文」コンクールで  
財団法人大蔵財務協会理事長賞  
に選ばれました。同中学の三年

生、上神田健大君は久慈税務署  
長賞、同一年の新屋沙織さんが、  
岩手県納税貯蓄組合連合会長賞  
に輝きました。普代中学校が四  
年連続で全国納税貯蓄組合連合  
会から、コンクール協力校とし  
て感謝状を授与されました。  
榎屋さんは「自分が税金にか

かわっていることを改めて感じ、  
もっと勉強していきたい」と受  
賞の喜びを語ってくれました。  
普代中学校は、毎年同コンクー  
ルに参加し、全国的に高い評価  
を得ています。生徒たちの頑張  
りを、みんなで応援したいもの  
ですね。

私の住んでいる普代村では  
「ラブ地球村グローアップ事業」  
を行っています。昨年の夏私は、  
その事業の「中学生国際交流研  
修生」として、アメリカ合衆国  
へ十日間程、研修にいってきま  
した。研修費用の大半は、村が  
負担してくれました。私は、村  
が負担するとはどういうことな

り、ホームステイをしたりと、  
とても貴重な体験をすることが  
できました。私は、このとき初  
めて、税がただ納めているだけ  
のものではないことを実感しま  
した。  
今日の日本は、少子・高齢化  
という問題を抱えています。そ  
こで、税とこの問題の関わりに

一人ひとりの負担が重くならざ  
るをえまません。  
現在、六十五歳以上のお年寄  
り一人を約四・三人で支えてい  
るのが、二十年後、つまり私た  
ちが社会人として働いている頃  
には、約二人で支えていくこと  
になるのです。過度の負担は、  
社会全体の活力を損なうおそれ

る暮らしの中に、税金の果たす  
役割の多さを感じました。税は  
働きものです。もし、税金がな  
かったり、税金を納める人がい  
なかつたら、今の私たちの生活  
はなかつたはずで、税に感謝  
しなければなりません。  
私は、まだ消費税という形で  
しか税金に関わっていません。  
でも、私の納めている税金が、  
少しでも社会の役に立っている  
ことが、うれしくなりました。



財団法人大蔵財務協会理事長賞  
村最優秀賞

## 「考えよう、私たちの未来」

普代中三年 榎屋 晶子さん

のか疑問に思い、母に尋ねてみ  
ました。すると、村が負担して  
くれるということは、税を通し  
て納税者の方々が負担してくれ  
ることになり、感謝しなければ  
ならないことだと分かりました。  
そして、そのおかげでNAS  
Aマリーシャル宇宙飛行センター  
や地元の小学校などを見学した

ついて調べてみました。高齢化  
により、社会保障を充実させる  
ことが必要です。社会保障制度  
の中でも重要なものは、年金と医  
療です。高齢者の増加に伴い、  
この方面の費用が増えることが  
予想されます。しかし、その反  
面、少子化によりその費用を負  
担する働き手が減ってくると、

があるので、国民負担の増加を  
極力抑えていくことが重要です。  
そのためにも税制を見直してほ  
しいと思います。  
私は、残り数が月で義務教育  
を修了します。考えてみると、  
税金によって私たちは有意義な  
学校生活を送ることができま  
した。普段の何気なく過ごしてい

私も近い将来成人し、社会人  
になります。そのときは、税のあ  
りがたさを忘れず、自分の役割  
を果たしていきたいと思えます。  
そして、私たちにとって大事  
なのは、めまぐるしく変化する  
社会の中で、国民一人ひとりが、  
税の果たす役割と必要性を認識  
し、将来のあり方についても真  
剣に受け止め、考えていくこと  
です。  
私たちの未来を、活気あふれ  
るものにするために。  
(原文のまま)

## 「税についての作文」コンクール入賞作品